

かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

編集・発行

広島市立広島市民病院
〒730-8518 広島市中区基町7番33号
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514

<http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

令和の時代を迎えて

—低侵襲手術について—

広島市立広島市民病院
副院長(心臓血管外科部長)

吉田英生



平成の時代が終わり、令和の時代が始まりました。平成30年間には戦争はなかったものの、3度の大地震を経験し、東日本大震災は広域で、津波による大災害となりました。復興も道半ばですし、原発問題が解決されるまでには40年が必要と言われ、気の遠くなる思いです。被災された方のことを思うと心が痛みます。また昨年広島、岡山、愛媛を襲った大雨災害は記憶に新しいところですが、地球温暖化と相まって年々自然災害が大きくなっている感は否めません。当院は災害拠点病院となっていますが、その整備が急務となっており、整備を進めているところです。災害に対する備えは必要ですが、できれば起きてもらいたくはありません。更に平成にはリーマンショックに代表される経済の低迷を経験し、アベノミクスで景気が回復しているとは言え、庶民にはその実感が少なく、景気浮揚策が後世の負担増になるのではと心配です。今年10月に控えている増税、年金問題などと不安材料が多いですが、令和の時代に大きな出来事が少ないことを祈るばかりです。

さて医療面に目を向けると内科領域では再生医療、ゲノム医療などが新しい医療の中心となり、外科領域では低侵襲手術が大きな流れとなっています。外科領域について少し述べます。開腹、開胸による侵襲の大きな手術から腹腔鏡、胸腔鏡を用いた小さい手術創による低侵襲手術が20数年前より開始され、現在ではロボット手術が最も低侵襲の手術となっています。ロボット手術は当院でも泌尿器科から始まり、産婦人科、消化器外科と続き、ダビンチ(ロボット手術システム)が昨年更新され、この5月より呼吸器外科でも開始されました。各領域とも保険適応となっている手術術式はまだ限られてい

ますが、適応術式の拡大が今後予想されます。私の専門である心臓血管外科領域の低侵襲手術としては約10年前より大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、数年前より大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を開始しています。開腹や開胸をしないため、以前は手術適応とされなかった重症あるいは高齢の患者様に適応となり、患者様の福音となっています。両術式ともに広島県では最も多い症例数ですが、これらの治療は高額な医療費を必要とし、医療費高騰が叫ばれている昨今、ジレンマを感じながら治療を行っているのが現状です。ロボット手術、ステントグラフト内挿術やTAVIは低侵襲で患者様の心身に優しい治療であり、また若い医療者にとっても魅力のある治療法であるので、今後も推し進めなければなりません。これは中核病院としての使命と思います。医療経済的には無駄な医療を少しでも削減することが医療費高騰に対する即効性のある方策と思われます。

病院の基本理念として「患者様の立場を尊重し、質の高い医療を提供」することを掲げています。高度先進医療を始めとする新しい治療法も大切ですが、それにより医療の質を落とすことがあれば本末転倒であり、あってはならないことです。「患者様ファースト」をモットーに、患者様に最良の治療を提供するべく努力しますので、今後とも広島市民病院を宜しく願いいたします。

20年の時を経て —都市機能としての病院施設—

4月から事務長に就任した野木浩司です。

私は約40年前の昭和53年から平成8年までの19年間経理係に勤務しておりました。

当時は、西棟が完成したばかりでしたが、旧中病棟や旧南病棟の増改築により、52年に救命救急センター、54年には無菌手術室や未熟児新生児センターを開設し、コンピュータシステムを導入したのもこの年でした。

また、昭和62年には中央棟の1期工事に着手するなど建物やシステム等病院機能が大きく成長していく時代でした。

20年余りが経ち再び広島市民病院に戻ってきましたが、東棟や立体駐車場、プロムナード、アストラムラインや中央駐車場と繋がるなど機能的で明るい都市型の洗練された病院施設となったと感じています。

これは、これらの施設を通して、広島市の中心地にある広島市民病院が、医療だけでなく、都市機能の一端として、街づくりに貢献しようという思いによるもので、市立病院として市民の皆様にも愛され、信頼される医療機関であり続けることを表現しているものと思っております。



プロムナード



プロムナード（外観）

その原点は「ホスピタリティ」ですが、これら施設の機能や景観、アメニティも重要な要素です。

この思いをしっかり受け止め、市立病院として果たすべき役割をしっかりと実行することで、皆様がこの施設をしっかりと価値あるものとして誇りに思ってもらえるよう、これからも一層努力してまいります。

医療における放射線の利用は元々医師によって行われていましたが、放射線診療技術の高度化に伴い知識や技術を身につけた専門職が必要となり、昭和26年に診療エックス線技師法が成立したことでエックス線装置の取扱いについての免許制度(国家資格)が定められ、医師以外で人体にエックス線を照射することを業とする専門職が誕生しました。その後、業務拡張に伴い新たに定められた診療放射線技師の仕事は「レントゲン撮影(エックス線撮影)」が中心であったことから、我々診療放射線技師のことを「レントゲン技師さん」とか「写真屋さん」なんて呼ぶ他科のスタッフもいました。しかし、機器や技術の進歩により、エックス線撮影装置と同じくエックス線を用いた透視装置、血管撮影装置、CT装置、乳房撮影装置、放射性同位元素(アイソトープ)を用いた核医学検査装置、磁場を利用して画像を撮像するMRI装置や癌などの治療のために放射線を照射する放射線治療装置を扱うようになり、近頃は「放射線技師さん」と呼ばれるようになりましたが、法律上の正確な名称は「診療放射線技師」です。

放射線技術部

放射線技術部は、平成27年度に診療放射線技師と事務員から成る組織として設立され、令和元年6月現在 診療放射線技師45名、事務員10名のスタッフが放射線診断科、放射線治療科、看護部、医事課と連携した放射線部門の一員として細分化・分業化が進みそれぞれの技術が高度化した診療におけるチーム医療を推進すべく日夜励んでいます。

広島市民病院において診療放射線技師が携わる業務

エックス線写真(レントゲン写真)撮影、乳房撮影・乳房生検、骨密度定量検査、CT撮影、MRI撮像、エックス線透視撮影、血管撮影装置を用いた診断および治療、放射線治療(外部放射線治療：リニアック、小線源治療：腔内照射、組織内照射など) 画像情報関連機器を用いた医用画像管理(画像ファイリング、画像書込みなど)および情報関連機器管理、放射線作業従事者および患者(IVR時)の被曝線量管理、診療用機器の点検および保守管理、放射線治療における治療計画の検証および治療装置の品質保証・品質管理、放射線防護用品管理、放射線防護に係る教育活動など

診療放射線技師

- Radiological Technologist -

医師または歯科医師の指示のもとに 放射線を人体に照射することを業とする者

診療放射線技師は、同じ医療職である医師や看護師に較べると「縁の下の力持ち」といった要素が強く、放射線治療担当者を除く一般的な診療放射線技師は、撮影時に患者さんとコミュニケーションをとる機会はありますが普段はあまり目立たないところで仕事をしています。しかし、診察や治療の基礎となる画像提供や関連機器、医用画像情報、放射線被曝に関連する管理を行う職種として誇りを持ち、それぞれの分野で掘り下げた専門資格や認定などの取得に励み、「写真屋さん」としての知識や技能を医療現場にフィードバックすることで的確な診断・判断と安全な医療施行のために大きく貢献しています。

広島市民病院診療放射線技師が有する資格・認定等
2018年5月現在

広島市民病院放射線部門で診療放射線技師が取扱う診療機器、周辺機器および薬剤
令和元年6月現在

第一種放射線取扱主任者：10
第二種放射線取扱主任者：2
医療情報技師：8
X線CT認定技師：6
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師：7
塩化ストロンチウム-89治療安全取扱従事者：3
ソフィーゴ取扱従事者：2
放射線治療品質管理士：3
放射線治療専門放射線技師：2
肺がんCT認定技師：2
救急認定技師：3
核医学専門技師：1
胃がん検診専門認定技師：1
医学物理士：1
衛生工学衛生管理者：1
第1種衛生管理者：1
PET認定技師：1
第一種作業環境測定士(放射性物質)：1
磁気共鳴(MRI)専門技術者：1

エックス線撮影装置(胸部・腹部撮影、骨撮影、小児撮影、乳房撮影など)：5
骨密度定量装置：1
エックス線テレビ装置：3
核医学診断装置：2
診療用放射性同位元素(RI：アイソトープ)
診断用CT装置：6(このうち、スペクトCT：1、IVR-CT：1)
MRI装置：2
血管撮影装置：5(このうち、ハイブリッド手術室：1)
画像解析装置
放射線治療(外部放射線治療装置：直線加速器：リニアック)：2
小線源治療装置(RALS)：1
放射線治療計画用CT装置：2
放射線治療計画装置
回診用撮影装置(ポータブル撮影装置)：8
医用画像情報関連機器
放射線計測関連機器

薬剤師外来やっています。

—安全な抗がん剤治療のために—



がんは国民の2人に1人がかかる病気といわれています。かつては入院での抗がん剤治療が多くありましたが、飲み薬に多くの新薬が開発され、現在は外来通院での治療が多くを占めてきています。患者さんの治療にあたるリーダーは医師ですが、「抗がん剤」に詳しい薬剤師が当院には多く在籍しています。外来での抗がん剤治療に薬剤師が協働していますので、ご紹介します。

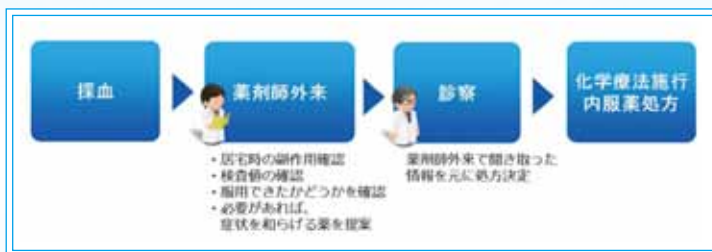
がんに対する治療薬は、大まかに4種類に分けられます。

- ① がん細胞と正常な細胞を同時に攻撃する薬
- ② 乳がん、前立腺がんなどに使用するホルモン剤
- ③ がん細胞の特異的な目印を狙う分子標的薬
- ④ 自身の免疫の活動をあげる免疫チェックポイント阻害薬

①は古くからある治療薬で、脱毛、吐き気、口内炎、骨髄抑制（白血球や血小板などが低下する副作用）、しびれなどが主な症状でした。しかし、③の分子標的薬や④の免疫チェックポイント阻害薬は、これまでの薬とは全く異なる副作用が出る場合が多く、特に外来治療が多くなった近年では、入院治療のように病院スタッフがいつも観察することが難しくなっています。そのため、患者さん自身が正しい知識を持ち、症状が出た場合にどう対応をするかをしっかりと理解していただく必要があります。当院では、治療を少しでも安全に、かつ効果的に続けていただけるように、「薬剤師外来」を設立しております。「薬剤師外来」には、がん治療の専門知識をもつ薬剤師が常駐しており、治療が始まる際には今まで飲んでる薬剤との飲み合わせや、個人の体の大きさや特徴にあった薬の量を確認した後、注意する副作用症状やその時期と対策について説明をしています。また治療を継続している方には、医師の診察前の待ち時間をお借りして、実際の内服状況や副作用を確認し、必要に応じて症状を和らげる薬を医師に提案しています。私たちは患者さんのQOL（生活の質）を大事にしながら、治療を継続するためのお手伝いをさせて頂いております。ご心配なことがあれば、積極的にご相談ください。



【治療薬開始の患者さん】



【継続治療の患者さん】

基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
※眼科／火・木曜日
午前10時00分まで
診療科によっては休診日がありますので
事前にご確認ください。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日
年末年始（12月29日～1月3日）

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科5,400円、歯科3,240円（H28年8月から）のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。